



地区長・幹事研修会

2月8日 町田市役所

令和元年度地区長・幹事研修会は **発災時初動（1日目）の避難施設開設『これだけはやらねば』**をテーマに39名が参加し、開催されました。

「第一部」

災害時の避難施設の運営 市防災安全課 井谷
・避難施設について 「災害によって住家を失い自ら住居の確保が困難な方」が避難する。

・風水害と地震災害の避難施設 風水害は気象庁からの気象情報等を参考に災害の発生前、事前に避難施設を開設。地震の場合は予知できず地震発生後に開設する。

・震災時の避難施設開設の手順と運営
過去の例では地域住民主体が一番うまくいく。
・避難施設関係者連絡会及び開設訓練について
避難施設開設と運営が円滑にできるよう平素から市、学校、地域の三者で行う連絡会は運営マニュアルの確認と修正をし、各避難施設毎のルールを作成する。

また開設訓練では手順、資機材の操作等を行う。



・自主防災組織リーダーについて
災害時の公助には限界があり、自助、共助が実現できる地域の自主的な取り組み（自主防災組織）が重要。平常時の取り組みに対し発災時では町内会長、防災隊長がいるとは限らず、「その場にいる誰もがリーダーになれる組織づくり」が求められる。

「第二部」

地震災害発生直後の避難施設の開設と日頃の取り組みについて 高橋（長田、安藤、丹羽）
市連作成のモデルマニュアルは内容が豊富なので、開設時だけでなく運営時でも役立つと思う。新聞記事からは「自主防災組織が実際には役立つか」と問題提起がされた。一番の問題は高齢化であるが、災害時に助け合う意識が必要。ただ、実際には防災意識が薄く、災害は他人事と安全神話に漬かり切っているなのでこの意識改革が必要。



*発災当日「これだけはやらねば」

避難施設開設は3段階で行う。

第一段階 避難施設の安全確認

関係者の参集、解錠、備品の用意、安全チェック、行政への開設報告を行う。

第二段階 受入れ準備

必要品の取出し、ペットスペース、トイレ、避難者案内と受入れ、配置を行う。

第三段階 受入れ・一夜を過ごす

避難者の協力を得てすぐやることと、少し落ち着いてからやる項目に分けて考える。

夜間安全確保の体制を作り、実際に一夜を過ごしてみ、開設が完了する。

*避難施設関係者連絡会及び開設運営訓練実例

避難施設の都立小川高校の例が紹介された。モデルマニュアルを参考に避難施設毎の事情に合わせたマニュアル作りを行った。連絡会の中に作業部会を立ち上げて実務をこなしていったので課題の解決に大きく役立った。

（敬称略）

編集委員

鈴木則夫

町田リサイクル文化センターの建替え工事について概要を教えてください？

現在のごみ焼却施設は、37年が経過し老朽化が進んだこととごみ処理量の「40%削減」を目標にし、約300億円かけて現在整備が進められています。焼却施設 258 t/日、不燃粗大ごみ処理施設 47 t/5 h、新たに生ごみを資源化する施設として、バイオガス化施設 50 t/日、また、環境学習・交流拠点の場として活用できる管理棟も建設されます。

新しい施設は、2022年1月からの稼働を予定しており、現在のごみ焼却施設は新しい施設の稼働後に解体し、跡地は緑地となります。



事業や建物デザインのコンセプトは？

「市民の生活環境に配慮した施設」「市民が安心して生活できる災害に強い施設」「市民がともに学び・遊び・育むことのできる施設」「市民が安全に生活できる安定的な運営」と4つの事業コンセプトがあり、設計から運営に関する取り決めについて市と地域で話し合いながら進めています。デザインに関しては、建物の圧迫感を与えないように高さを感じさせない工夫や工場に見えない先進的で開放的な明るいデザインを選定しました。

ここに建て替えることにした経過は？

市民を交えた検討委員会で町田市全域を対象に、法的な制約、収集運搬の効率性などの条件で絞り込み、敷地形状、余熱利用などの評価項目に基づき検討しました。その結果を受け、町田市で交通手段、土地の所有、余熱利用の可能性の視点から現在の町田リサイクル文化センター敷地内を施設等の建設地としました。

どんな施設になるの？

ごみを処理するだけでなく、環境学習拠点として工場見学ゾーンを充実し、リサイクルショップの出店、市民向けイベントの開催、会議室の貸出等が予定されており、地域に開かれた交流拠点としての活用が期待されています。また、バイオ・ごみの焼却による発電を利用して災害時の防災拠点としての活用を予定しているそうです。

施設周辺に何が出来るの？

- ①町田市立室内プール敷地内に「健康増進温浴施設」
 - ②最終処分場池の辺地区に「(仮称)町田スポーツ公園」
- 周辺環境整備として2022年4月の完成を目指して事業を進めています。



ごみの処理については町田市民全体が向き合い、市民一人ひとりが等しく負担するべきであることを知っていただくとともに、新しい施設がどんなものかを知っていただければ幸いです。

(編集委員：田中 幹生)